

ペルー ブルーベリーをアジア市場のより多くの国に輸出したい

[Blueberries Consulting Magazine 2025年7月14日](#)

第37回国際ブルーベリーセミナー2025(ペルー・トルヒーリョ市)の初日、ペルー・ブルーベリー生産者輸出業者協会(Proarándanos)の総括責任者であるルイス・ミゲル・ベガス氏は、アジアのより多くの国に輸出したいという願望を表明した。(以下「」は同氏の話)

「アジアは大きな可能性を秘めた市場である。ペルーから中国への輸出は年々増加しており、チャンカイ市の巨大な港湾(メガポート)の開港によりこれは増加する一方だが、アジアには我々がアクセスできない輸出先がまだいくつかある。」

ベガス氏は、ペルーがインドネシア、日本、韓国等、アジア市場のより多くの国に輸出できるようにしたいと考えており、ペルー農業検疫局(Senasa)の助けを借りて今後数年間で達成したいとの願望を表明した。

同氏は、新しい市場を開拓することは重要であるが、既に手に入れている市場を守ることも重要であると付け加えた。「輸出先国の当局は毎年ペルーを訪れる。その目的は主に、その目的地にそのシーズンに輸出する準備が整っていることを検証することである。したがって、自己満足の余地はない。」

一方、同氏は、ブルーベリーの輸出の増加は雇用を創出するため、同国にとって引き続き非常に有益であると述べた。

「ブルーベリーは労働集約的な作物であり、高給の正規雇用を多く生み出し、国家の手が届かない多くの地域に発展をもたらした。さらに、ブルーベリー産業のおかげで、多くのコミュニティに発展と幸福をもたらされた。」

同氏は、この成長には多くの課題があり、より一層の国家の支援が必要であるとして、政府がより多くのリソースをSenasaに提供することを希望すると付け加えた。

輸出は30%増加

同氏はまた、輸出向けのブルーベリーの出荷量は毎年増え、2025年には400トン以上増加したと述べた。

「出荷量は毎年増加している。ただし、2023年はエルニーニョ現象により、予測を下方修正した。それでも、かなりの量が出荷されたが、それが出荷量が減少した唯一の年であった。」

課題

輸出向けの出荷量の増加が重要であることは事実であるが、ブルーベリーの46%がカヤオ港から、40%がパイタ港から出荷されているため、出荷のプロセスに『ボトルネック』があると同氏は述べている。

「これら2つの港への依存が見られる。カヤオ港の内外が混雑しているため、出発港を多様化し、サラベリ一港やチャンカイ港への荷の分散を促進し、物流事業者の数を増やすとともに、パートナー企業からの情報に基づくより的確な将来予測を行うことが必要である。」

(以下、9月にモロッコで開催される第38回セミナーへの参加の呼びかけについて省略)